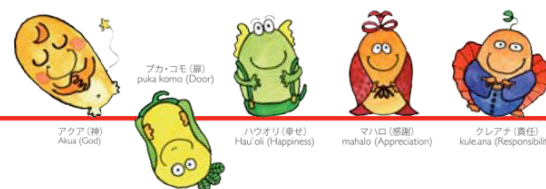


あなたとペット動物の災害対策 —特にペットとの同行避難のために—

阪神・淡路大震災 (平成7年(1995年)1月17日) 時における動物達への対応 —具体例と問題点—

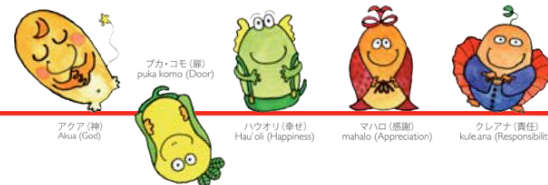
富永佳与子

公益社団法人Knots



阪神・淡路大震災の被害状況

- 死者 6,432名
- 負傷者 43,792名
- 全壊家屋 104,906棟
- 被害額 9兆6千億円
- 被災動物推定数 9,300頭
(犬:4,300 猫:5,000)
- マグニチュード7.2 震度7



動物救援の初動

17日： マスターフーズ・リミテッドより物資提供申出

19日： 西宮市に動物救護テント

20日： 総理府の指導により

「兵庫県南部地震動物救援東京本部」 設置

21日： 「兵庫県南部地震動物救援本部」 設置

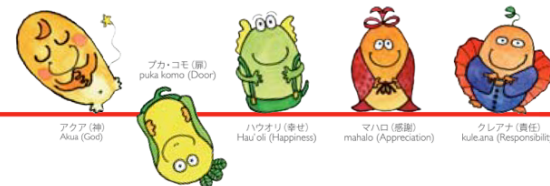
社団法人兵庫県獣医師会

社団法人神戸市獣医師会

社団法人日本動物福祉協会阪神支部

被災地へのフードの供給が始まる。

平成8年5月29日 神戸動物救護センター閉鎖



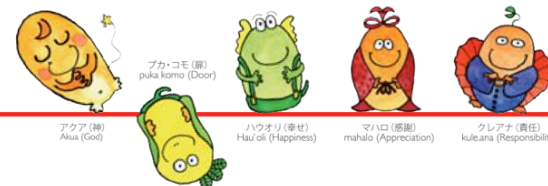
救援本部の活動方針

- ① 被災地・避難所への餌の配送
- ② 負傷動物の収容、治療及び保管
- ③ 飼育困難な動物の一時保管
- ④ 放浪動物の一時保管
- ⑤ 所有者及び里親探し
- ⑥ 動物に関する各種相談

* 収容動物 1, 556頭

返還 356頭 譲渡 1, 045頭

(兵庫県南部地震動物救援本部活動の記録)



実は同伴避難は成功していた？！

- 平成7年2月時点

「避難所における被災動物の状況及び飼い主等の対応に関する調査」（社団法人（当時）日本愛玩動物協会）

調査票本 67避難所

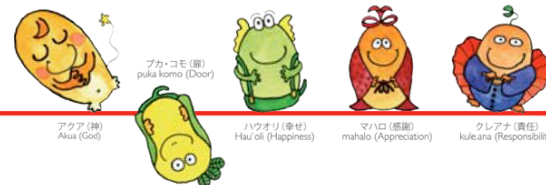
受入 56避難所（83.6%）

迷わず連れてきた 犬:63.5% 猫:42.5%

苦情 5箇所（8.9%）

48箇所は大きなトラブルはなく、

動物は、可愛がられていた。



ペットはどこに置く問題

- 「ペットは禁止」という規定はない

<誰が決める？>

- 「避難所」・・・管理者
- 「仮設住宅」・・・住宅管理側である自治体

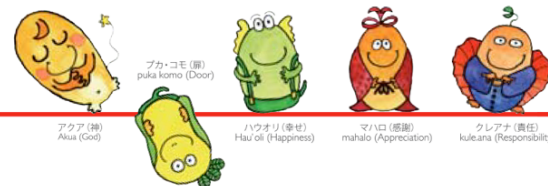
市営・県営住宅は、通常ペット不可

キーワードは・・・「迷惑防止」

実際の迷惑ではなく、想定 of 迷惑

管理側に解決策がない

飼い主とペット動物と一緒に居られる場所の確保が
何よりも重要！



住宅問題

<仮設住宅> 669箇所 48,300戸

<災害復興住宅>

1998年 ペット共生モデル事業
県営99戸 市営 69戸 整備

* 被災地域での再建ではなく、
用地の確保できる場所(多くは郊外)

→ コミュニティの崩壊・

社会的孤立・孤独死等の問題

* ペットと暮らすことを断念し、
ペットの安楽死を選択された方も。



同行避難に向けて

- 所有者明示

マイクロチップの普及啓発強化

別の場所に隠れていた:

犬の2割、猫の5割

* 「避難所における被災動物の状況及び飼い主等の対応に関する調査」
(社団法人(当時)日本愛玩動物協会)

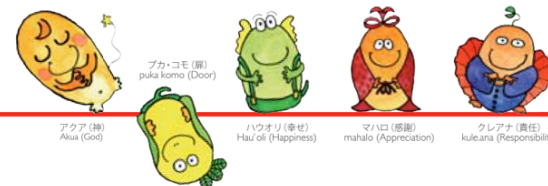
- クレートトレーニングの重要性

一般の飼い主さんには盲点

- 可愛がられるペットに

社会化の機会を多様に

最近は、特に犬同士



獣医師との信頼関係構築

例えば:

兵庫県南部地震動物救援本部

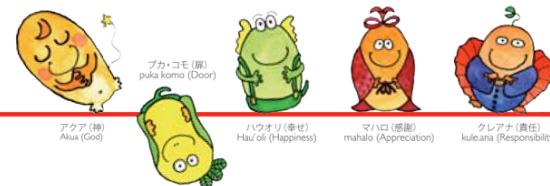
神戸市獣医師会会長 旗谷昌彦先生

日本動物福祉協会阪神支部

副支部長 松田早苗先生

旗谷先生は、松田先生のホームドクター

いざという時に、信頼できる存在



コミュニティでの獣医師の役割

阪神地域では、

全壊の獣医師が最も多く被災犬を診療

神戸市では、

震災直後・半壊の獣医師: 74.4%

1ヶ月後・全壊の獣医師: 61%

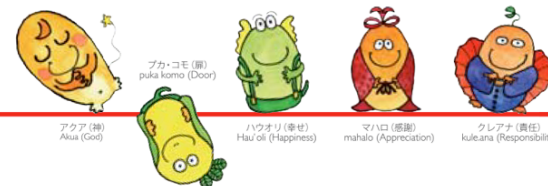
(兵庫県南部地震動物救援本部活動の記録)

ペット動物: 飼い主さんにとって

地域コミュニティでのキーになる存在

→ 獣医師の存在は、

飼い主さんや地域にとって極めて重要



車での避難

平成30年7月豪雨災害

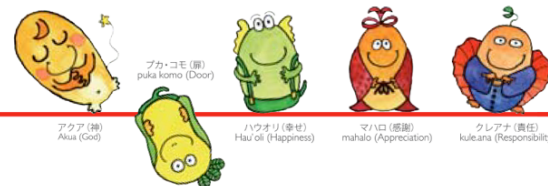
山陽道・・広島から福山東通行止め

2号線、海側は通れず、山中を彷徨うことに

375号線 → 広島フライトロード → 久井 → 世羅
府中市を目指すも、どこからも入れず →
神石高原町 → 182号線

* 通行止め情報がGPSで共有されれば、大きな力に

* 車のシガーソケットUSB充電器は、安心材料



これからの災害対策のヒント

ペットは、**守るべき家族！社会の一員！**

避難先で同じように家族を守っている方は？

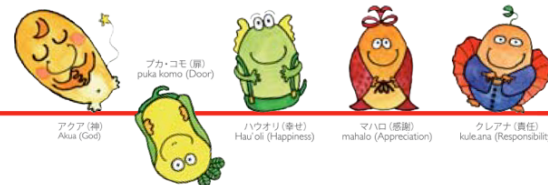
お子さん連れ、高齢者の方、
病気を抱える方、体の不自由な方等

→ 「地域でみんな一緒にケアを考える」
という発想はどうでしょう？



ペットの課題 = 交通・住宅・コミュニティの保全等

→ 社会的弱者保護・地域課題に繋がる



一緒に災害を乗り越えましょう

